

2017年（第7回）

鳥栖・ツアイツ子ども交流事業報告書

平成29年7月23日（日）～8月7日（月）

派遣先：ツアイツ市（ドイツ連邦共和国）



鳥栖市・鳥栖市教育委員会

*目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

*鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿・・・・・・・・2

*事前研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

*訪問日程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4～5

*ツアイツ市概要及びツアイツとの交流のあゆみ・・・・・・・・6～8

*参加者の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9～19

*日記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20～36



鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿

【団員】

生徒氏名		年齢(歳) (H29.4.1 現在)	性別
樋口 結一	HIGUCHI YUICHI	12	男
細川 留花	HOSOKAWA RUKA	12	女
宮原 識水音	MIYAHARA SHION	13	女
吉川 さくら	YOSHIKAWA SAKURA	15	女
廣田 大騎	HIROTA TOMOKI	15	男
弓 日向菜	YUMI HINANA	15	女
黒田 優香	KURODA YUUKA	17	女

【引率】

所 属	役職	氏 名		性別
鳥栖市 市民環境部 市民協働推進課 男女参画国際交流係	係長	下川 有美	SHIMOKAWA YUMI	女
鳥栖市 市民環境部 市民協働推進課 男女参画国際交流係	主事	鳥飼 昌弘	TORIKAI MASAHIRO	男

事前研修

- 5月28日(日) オリエンテーション
スケジュールについて
団員自己紹介
旅行手続説明
ドイツ滞在中の注意事項



- 6月 3日(土) 第1回事前研修
ドイツ語(あいさつ、自己紹介)
ドイツ文化(ドイツはどこにある?)
研修テーマの検討
送別会の出し物検討



- 6月17日(土) 第2回事前研修
ドイツ語(アルファベット、数字、毎日使うドイツ語)
ドイツ文化(戦後ドイツの歴史)
研修テーマの検討
送別会の出し物検討

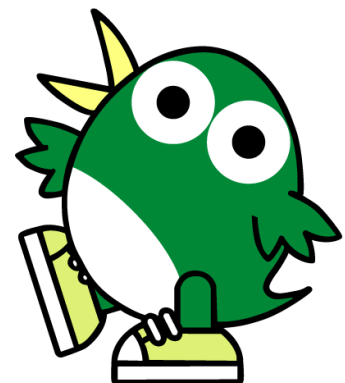


- 6月24日(土) 第3回事前研修
ドイツ語(自己紹介、日常会話、食べ物・飲み物)
ドイツ文化(宗教画、環境)
研修テーマの決定
送別会の出し物検討
リーダー、副リーダー決定
日記担当の決定



- 7月 1日(土) 第4回事前研修
ドイツ語(自己紹介、覚えておきたいドイツ語)
ドイツ文化(日本語の中のドイツ語、英語とドイツ語の関係)
送別会の出し物の練習
ホストファミリー組合せの決定

- 7月15日(土) 第5回事前研修
旅のしおり、ホームステイミニマニュアル説明
千羽鶴作成
送別会の出し物の練習
結団式・解団式・事後研修の日程決定



結 団 式 7月21日(金)

本 研 修 7月23日(日)～

8月 7日(月)

解 団 式 8月 8日(火)

事後研修 10月 7日(土)

研修テーマのまとめ

報 告 会 11月 4日(土)

ツァイツ市1050年祭公式訪問団と合同で
報告会を開催。(市民文化会館ホワイエ)
合同パネル展を開催。(市民体育館：11月3～5日)



訪問日程表

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月23日 (日)	6:30	福岡空港国内線集合	各自	
	7:50	福岡空港出発(NH1702便) ～9:00 関西国際空港到着	飛行機	
	10:15	関西国際空港出発(LH741便)	飛行機	
	∫	(時差 -7時間)		
	14:50	フランクフルト空港到着/入国手続		
	17:00	フランクフルト空港乗継/出発(LH160便)	飛行機	
	17:55	ライプツィヒ空港到着 ツァイツ市・受入家庭出迎え/各家庭へ	自家用車	ホストファミリーと一緒に
7月24日 (月)	11:00	ツァイツ市役所 市長表敬訪問 ツァイツ市役所見学(市役所の塔登り)	徒歩	
	12:30	昼食(レストラン「ルスティカ」)		
	13:30	ツァイツ市内の散策		
	14:30	ドラムワークショップ		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	ホストファミリーと一緒に
7月25日 (火)	9:00	託児所訪問(キータ・ムズィクス)		
	12:00	昼食(エールミュレ)	徒歩	ツァイツ市学生と一緒に
	13:00	モーリツブルグ城内と日本庭園の見学		
	15:30	解散・受入家庭へ帰宅		
7月26日 (水)	10:00	乗馬体験(乗馬クラブ)	自家用車	
	12:00	昼食(騎士の家)	大型自動車	
	14:00	ブーヘンヴァルト強制収容所訪問前のワーク ショップ	馬車	ツァイツ市学生と一緒に
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月27日 (木)	8:00	ブーヘンヴァルトへ出発	大型自動車	
	10:00	ブーヘンヴァルト強制収容所跡訪問(千羽鶴奉)		
	14:00	昼食(ホットドック)	徒歩	
	14:30	ワイマール市内見学		
	16:30	ツァイツ市へ移動	大型自動車	
	17:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月28日 (金)	9:00	エイントマン社訪問(金属に刻印する会社)	徒歩	ツァイツ市学生と一緒に
	12:00	昼食(青少年の家)		
	14:00	ドイツ式ポーリング		
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月29日 7月30日 (土・日)		ホストファミリーの企画		
7月31日 (月)	9:00	ライブツィヒへ出発	大型自動車	一部のホストファミリー 同行
	10:00	ライブツィヒ市内見学		
	12:00	昼食(ライブツィヒ大学)		
	16:00	ツァイツ市へ移動		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月1日 (火)	10:00	ポーザー修道院/ハーブ料理	徒歩	ツァイツ市学生と一緒に
	12:00	昼食(ポーザー修道院)		
	14:00	カヌー体験	大型自動車	
	16:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月2日 (水)	10:00	夏そり体験	大型自動車	一部のホストファミリー 同行
	12:00	昼食(レストラン)		
	14:00	ヴァイセンフェルス警察署見学		
	16:00	ツァイツ市へ移動		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月3日 (木)	9:00	コロリート劇場訪問/劇制作	自家用車	一部のホストファミリー 同行
	12:00	昼食(コロリート劇場)		
	13:00	ナウムブルグへ移動	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	14:00	アスレチックの森体験		
	18:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月4日 (金)	9:00	和食調理(青少年の家)		
	12:00	昼食(青少年の家)		
	13:00	和食調理(青少年の家)		
	15:00	送別会出し物の準備・練習		
	18:00	ツァイツ市関係者、ホストファミリーで送別会		
	22:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	ホストファミリーと一緒に

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月5日 (土)		ホストファミリーの企画		
8月6日 (日)	11:30	ライプツィヒ空港集合・待合/搭乗手続	自家用車	ホストファミリー見送り
	13:50	ライプツィヒ空港出発 (LH167 便)	飛行機	
	14:45	フランクフルト空港到着		
	18:05	フランクフルト空港乗継/出発 (LH716 便)		
8月7日 (月)		(時差 +7時間)		
	12:15	羽田空港到着/乗継	飛行機	
	14:10	羽田空港出発 (NH437 便)		
	16:00	福岡空港到着/入国手続・荷物受取		
	16:30	福岡空港出発	貸切バス	
	17:00	鳥栖市役所到着		
	17:30	解散		

ツァイツ市概要

位置

- ツァイツ市はドイツの北東部にあるザクセン・アンハルト州の南端にあります。
- ツァイツ市はライプツィヒの南西42kmに位置し、ライプツィヒ空港まで車で約1時間ほどです。

面積

87.18 km²

人口

29,751人

特徴

○交通の要所

ツァイツ市は、2つの高速道路A9、A4が近くを走り、市内でB2、B91、B180の3本の国道が交差しています。鉄道は、ライプツィヒ - ゲラ線が通っており、交通の便がよい街です。

○主な工業

化学工業が最も盛んであり、機械工業、環境工学、採炭工業、サービス業があります。

歴史

- 967年、ツァイツが「Cici」の名前で文献にでています。中世の頃、司教の居住地として栄え多くの歴史的建造物が作られました。
- 19世紀半ばに、石炭鉱業が盛んになり、1900年代前半には、化学製品やピアノ、乳母車、褐炭処理機械が世界中に輸出されました。
- 1936年フッペルのピアノ製造工場が、ピアノ製造を停止、戦後工場は閉鎖されました。
- 1949～1990年ドイツ民主共和国（東ドイツ）に属し、計画生産のもと多くの工業が盛んでした。

ツァイツ市との交流のあゆみ

年	月	主な内容
1998	10	朝日新聞鳥栖通信局の記者が、フッペル社がドイツのツァイツ市にあったことを確認。
1999	3	「映画『月光の夏』を支援する会」事務局長が鳥栖市長の親書を携えツァイツ市を訪問。朝日新聞鳥栖通信局記者が同行。
	5	ツァイツ市長から交流を推進したいと返信がある。
2000	3	「鳥栖子どもピアノコンクール実行委員会」が、受賞記念コンサートに、ツァイツ市音楽学校校長及び生徒2名とツァイツ市職員を招待。
2001	4～5	「鳥栖子どもピアノコンクール実行委員会」代表、コンクール受賞者2名、秘書広報課長がツァイツ市を訪問。
2002	3～4	ツァイツ市長、学校文化局長が鳥栖市を訪問。今後の交流及び2004年庭園博覧会の日本庭園整備に対する技術協力について協議。
	6	市報でツァイツ市との文通希望者を公募。随時、希望者に手紙を配布し文通が始まる。
	6	鳥栖市緑化協会会員2名と広報広聴課長が、ツァイツ市を訪問。日本庭園整備のための現地調査を行う。
2003	5～6	鳥栖市緑化協会会員4名をツァイツ市へ派遣。庭園博覧会会場内に日本庭園完成。
2004	7	鳥栖市長を団長とする総勢17名の訪問団がツァイツ市を公式訪問する。また、庭園博覧会“日本の週”で日本文化を紹介する。
2004	8	鳥栖市の中学生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活や学校などを体験。
2005	4	ツァイツ市長をはじめとする4名が鳥栖市を公式訪問。企業視察、伝統文化体験、市民との交流を深め、教育、スポーツ分野での交流について協議。
2005	5	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2006	1	フッペル平和記念鳥栖ピアノコンクール受賞者がツァイツ市を訪問。ツァイツ市芸術発表会で演奏をするなど、音楽を通じて交流を深めた。
2006	8	鳥栖市の中高生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。
2006	10～11	ツァイツ市の芸術家が、鳥栖市緑化協会の協力により東公園（ドイツエリア）にモニュメント「月への28の望み」を制作。
2006	11	鳥栖市議会議長をはじめとする5名がツァイツ市を公式訪問し、議会や環境についてなど意見を交換。
2007	5～6	ザクセン＝ツァイツ公国350年祭に招待を受け、鳥栖市、フッペル平和記念鳥栖ピアノコンクール実行委員会、鳥栖市文化連盟の代表者らが公式行事に参加し、ピアノコンクール受賞者が招待客らを前に演奏。
2007	7～8	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。

年	月	主な内容
2008	3	アンナ・マグダレーナ・バッハ音楽学校マティアス・ブッター校長及び学生2名が鳥栖市を訪問。音楽学校生徒2名がピアノコンクール受賞者記念コンサートに出演し、音楽を通じて交流。
2008	7～8	鳥栖市の中高生7名、引率2名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2008	7～8	鳥栖市長及び随員1名がツァイツ市を訪問。両市の新市長就任により初対面。子ども交流事業の期間中でもあり、子どもたちの交流と一緒に体験。
2009	6～7	ツァイツ市の学生9名、引率2名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2010	7	第1回ツァイツ市砂糖祭に招待を受け、ツァイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長、鳥栖市議会議長らが公式行事に参加。
2010	8	鳥栖市の中高生10名、引率2名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2011		東日本大震災によりツァイツ市からの来日が延期。ツァイツ市からの義援金約233万円が鳥栖ロータリークラブへ送金。この義援金は、鳥栖市長より気仙沼市長へ届けた。
2012	5	ツァイツ市長をはじめとする4名が鳥栖市を公式訪問。友好交流都市協定を締結。エネルギー関連企業等の施設を視察し、さまざまな意見を交換。 ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2013	7～8	鳥栖市の中高生10名、引率2名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。ツァイツ市へ水害義援金約159万円を贈呈。
2014	5～6	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2015	7	国立歴史民俗博物館で行われた「ドイツと日本を結ぶもの一日独修好150年の歴史」に、両市の交流の歴史についてパネルを出展し、「日独友好関係者の集い」で、ツァイツ市が鳥栖市との交流事業について事例を発表。
2015	7～8	鳥栖市の中高生10名、引率者2名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2015	10	ツァイツ市folk-märchen・クンツェ市長、ツァイツ市営企業有限会社支配人アンドレアス・フーケ氏、医師ロビィ・シュルント氏の3名が鳥栖市を来訪。
2016	6～7	ツァイツ市の学生10名、引率者2名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。平和交流の一環として長崎にある平和公園や原爆資料館を見学。
2017	6	ツァイツ市1050年祭に招待を受け、ツァイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長をはじめ、鳥栖市文化連盟8名、鳥栖市緑化協力会2名が公式行事に参加。日本文化の公演及びワークショップ、日本庭園への技術提供を行った。

団員の感想





「思い出の16日間」

樋口 結一

事前研修でドイツの事は勉強しましたが、まだ知識も少なく不安な気持ちでライプツィヒに着きました。

空港でホストファミリーの方々に暖かく迎えてもらい、ほっとしました。着いたその日には、レストランで食事をご馳走になりました。あまりの量の多さと大きさに圧倒されましたがなんとか完食！ホームステイ先に帰宅しぼくの16日間のツアイツでのホームステイが始まりました。

今回の滞在で特に思い出に残ったことは、ブーヘンヴァルト強制収容所に訪れたこと、週末にホストファミリーからドレスデンとチェコに連れて行ってもらったことです。

強制収容所の事は父の勧めで「シンドラーのリスト」と言うヒトラーのユダヤ人虐殺の映画を見たので知っていました。実際に収容所を見学すると、残酷な殺し方をした部屋などがあり、映画で沢山の人が焼かれるシーンを思い出しても怖い気持ちと、「今は平和でよかった」というありがたい気持ちになりました。死体を焼却した場所には、以前鳥栖からの先輩の団員の方々が奉納した千羽鶴が大事に吊るされていました。僕達もみんな折った千羽鶴を奉納し黙とうしました。戦争の時、恐ろしかったドイツは、今はとても穏やかで美しい場所になっています。ぜひ今度は家族とツアイツに訪れたいと思いました。

土曜日に連れて行ってもらったドレスデンの町は第二次世界大戦の時に沢山の建物が破壊され、それを近年少しずつ再建したそうです。ドーム型の建物や屋根や入り口に石で作られた天使や動物などの造形物、沢山の宗教画が飾られていました。「ドイツの人たちも日本人と同じ、古い建物や街を大切にしているんだな」と感じました。



日曜日はチェコのバスタイン渓谷の要塞に行きました。大きく高い岩が沢山ならんで、その岩の間に石やレンガで作った橋が渡されていて、とても美しい風景でした。そこでロッククライミングをする人もいたので、僕も将来挑戦してみたくくなりました。

今回のホームステイの思い出はまだまだ沢山あります。ホストファミリーのゲオルク君と近くの湖の端から端まで泳いだこと、お姉さんのアントニアさんとドレスデンで散歩したこと、妹のジョアンナさんが日本のパチパチキャンディを食べて不思議そうな顔をして喜んでくれたこと、弟のリチャードと湖で砂遊びをして楽しんだこと、お母さんと庭にいた大きなナメクジの話をしたこと、夜いつもソファーにすわって美味しそうにビールを飲むお父さんの優しい笑顔、本当に大切な思い出ができました。

そして今、僕はツアイツの友達と少しずつメールで連絡しています。

今回の貴重な体験をサポートしていただいた皆様に心から感謝します。

大切に受け入れてくれたホストファミリーの方々、引率して下さった下川さん、鳥飼さん、そして団員のみなさん、ありがとうございました。Vielen Danke！！



「異文化交流を通して」

細川 留花

私は今回2回目のヨーロッパ圏訪問となりました。ドイツは初めてで分からないことも多く、周りの方々に助けを頂ながら沢山のことを学ぶことができました。二週間の間にたくさんの貴重な体験をさせていただき、一日一日があつという間に過ぎていきました。私はドイツに行ってみて、ドイツ、日本それぞれの素晴らしい所を発見することができました。

ドイツにはたくさんの自然や歴史的建造物がありました。私の心を釘付けにしたのは、豊かな石畳の街にオレンジ色の屋根が美しく輝いていたことです。統一された町並みはとても美しく、歴史的な建物や教会をそっと見守っているように思いました。古い物を大切にし、調和させるということが大切だと実感しました。ドイツではいたるところに緑があり、環境保全のために風を利用した風車や、光を利用した太陽光などを取り入れていました。日本は原子力や火力が主な発電なのでもっと自然の力を利用したエネルギー開発をした方がよいなと思いました。



また、日本の素晴らしさにも目を向けることが出来たように思います。衛生面がよく、電化製品など大変便利にできていると思いました。ドイツはトイレが有料でなかなか見つけることが難しかったように思います。午後6時を過ぎるとトイレが閉まり困ったこともありました。しかし、逆にトイレを使える、ありがたさを感じる新鮮な体験でした。



ドイツにもたくさんのお城や教会がありました。しかし、日本にも素晴らしい歴史的建築物がたくさんあることを思い返すことができ、もっと昔の文化や建物を残し、大切にしていけるべきだと考えさせられました。

私はこの交流事業でホームステイも体験し、どこの国でも家族の温かさは同じだと感じました。ホストファミリー、ホストシスターの親切と愛にとっても感謝の気持ちで一杯です。言葉の壁はあるものの、コミュニケーションの大切さや、言語の難しさを感じる事が出来、これからの学習姿勢を考え直すことができました。

最後にこれまで支えてくださった皆様、この様な貴重な体験をさせていただきありがとうございました。きっと一生の宝物になると思います。そして団員のみんなとの素敵な出会いに感謝で一杯です。本当にありがとうございました。





「最高の16日間」

宮原 識水音

あっという間に過ぎ去った16日間。自分の中でこんなにも早く過ぎ去った16日間は経験したことがありませんでした。面接に受かった時はとても嬉しかったです。1度ホームステイを経験していることと大雑把な性格で、ドイツに行く前には何の不安も無く、「ヨーロッパに行ける!」「本場のソーセージを食べることが出来る!」ただただ楽しみで仕方ありませんでした。

ドイツでは、毎日がとても楽しかったです。なかなか英語が通じないこともありました。でも、ホストファミリーはいつも待ってくれたので、Sarah（ザラー）と話すのも、どうにか英語を使って話すのはとても楽しみでした。

ドイツでの1番の思い出は、何と言っても毎日の食事です。日本とは違った食文化でご飯はありません。朝食はパンとフルーツでした。日本にあるような食パンではなく、種の付いたロールパンのようなものでした。ハムは4種類程あり、どれも美味しかったです。フルーツは何でも皮ごと食べていて驚きました。昼ご飯は、量が1番の違いでした。日本人と食べる量が違います。沢山あつ



て毎日とても満足でした。夕食は、大体肉料理と蒸したポテトでした。ソーセージやシュニツェル、ステーキなどどれも最高の味でした。そんな中で私が1番感動したのは、ワイマールで食べた昼御飯のローストポークをパンで挟んだものでした。あれは、一生忘れないドイツの思い出です。パンは、丸く少し周りが硬くしっかりとした感触が有り美味しかったです。ローストポークは、スパイスが効いていて香りがよくジューシーに焼かれていてと〜〜っても”Lecker”（美味しい）でした。

他にも乗馬、カヌー、ブーヘンヴァルト強制収容所訪問など日本では出来ない、貴重な体験をすることが出来ました。16日間、毎日過ぎていくのが早く、寝る度に1日が終わると感じとても悲しかったです。特に、最後の数日は嵐のように去っていきました。でも、ドイツでの経験は、楽しい思い出と美味しかった思い出ばかりでした。1週間経った今でも昨日のこと思い出せるほどです。来年、再びSarahと会えるのがいまから待ち遠しいです。

7人の愉快的仲間たちや下川さん、鳥飼さん、カトリン、ステファン、通訳のフェリックスそしてドイツの子ども達と家族みんなで過ごしたドイツへのホームステイは一生忘れ無い私の宝物です。

Danke Schön !!!!





「ドイツでの忘れられない16日間」

吉川 さくら

高校生のうちに自分の見たことのない世界を見てみたい。そう思っていた時に、この鳥栖・ツアイツ子ども交流事業のことを知りました。言葉の違いについていけるのかと少し心配になることもありました。ドイツに行っているいろんな経験ができるという期待のほうが大きかったです。

いよいよドイツに向けて出発する当日、長いと思っていた約12時間のフライトもわくわくで、あっという間に過ぎていきました。空港に到着すると、ホストファミリーが笑顔で迎えてくれました。いきなり、「アイスを食べに行こう！」と言われたときに、日本とは違うと感じました。ホストファミリーの家に行く途中、ドイツは環境大国と言われるだけあって、



風力発電の多さに驚きました。ホストファミリーの家は、ツアイツ市内から少し離れた自然豊かな地域にあって、空気がきれいでおいしかったです。

ドイツでの初日は、少し緊張してしまって、思うように話せませんでした。しかし、日に日にホストファミリーの言っていることが理解できるようになり、返事ができるようになって、外国の人とコミュニケーションをとることは、こんなに楽しいと感じることができました。それと同時に自分が話したいことが素早く英語にできなかつたときに、もっと英語が話せたらもっと楽しかっただろうなと悔しい気持ちにもなりました。



ツアイツ市の方々が考えてくださったプログラムは、日本では体験できないものもあり、とても充実した時間を過ごすことができました。また、そのプログラムの中で、他のホストファミリーと関わることができてうれしかったです。

私が16日間の中で一番好きだった時間は、ホストファミリーと一緒にドイツのテーブルゲームをした時間です。ゲームをしながら、みんなでいろんな話をしました。ホストシスターは、運転免許を持っていて、お気に入りの場所に2人でドライブに行きました。16日間は長いようであっという間に過ぎてしまいました。

そして、帰国する日が近づくにつれて、日本に帰りたくないという気持ちが強くなっていきました。それも私のホストファミリーがおもてなしをしてくれたからだと思います。来年、それ以上のおもてなしができるように頑張っ



て英語を勉強したいと思います。私にとってこの経験は、とてもかけがえのない忘れられないものになりました。この交流事業に関わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。



今回、私がドイツに行って得られたものは、数多くありますが、一番印象に残ったことを語ろうと思います。

私は3年前、家族旅行でアメリカに行きました。当時中学1年生の私は、ほとんど英語が話せませんでした。しかし、実際に行って話してみると、現地の人でも私のほとんど単語の羅列である言葉を理解してくれました。また、私に話し掛けるときは、できるだけ簡単な英語で話してくれ、当時の私でも理解することができました。この時の経験から私に英語を恐れることなく話せるようになった気がします。そのことは今、私の英語学習の根幹にあるのだと思います。

しかし、今回のドイツ訪問では、それとは全く反対のことを学びました。それは、自分がいま直面した英語能力的課題の深刻さです。

時制がおかしい、発音が悪いなどは、よく言われていることです。私もよく、アメリカ人の先生に”Your pronunciation of that word was wrong. Be careful, Hirota.”(発音おかしいよ)と言われます。おかしいと言われても、そうなのか、と思う程度でありあまり重く受け止めたことはありませんでした。もちろん、できるだけ発音がよくなるようにはしていましたが、アメリカ旅行の時の経験もあり、正直多少おかしくてもいいのではないか、という思いもありました。ですが、実際にドイツに行ってみると、ことの深刻さが身をもってわかりました。

ドイツの人にとっても英語は「外国語」であり、得意な人は少なく、日本における立ち位置と似たようなもののようです。そんな中で、相手とコミュニケーションを取りたいならば、より「本物」に似せた発音で話さなければ、相手に伝わりませんでした。逆に相手が話していても、発音が悪くて聞き取れないことが多くありました。私のホストマザーは、英語の先生だったので、彼女の英語はかなり聞きやすかったのですが、人によっては文脈なしではほとんど分かりませんでした。

相手がネイティブであれば、私の言いたいことをある程度くみ取ってくれます。しかし、「外国語」としての英語同士ならば、完璧…とはいかなくともそれに近い発音、文構造で話さないとなかなか通じません。もちろん簡単な用事であれば、割と雑でも通じましたが、少し複雑な用事を伝えるときには、高いレベルが求められます。

ここにきて始めて、先生が口を酸っぱくして、綺麗な発音に気をかけなさいという理由がわかりました。そのことが実感を伴って「理解」できたのです。正しい、きちんとした英語を話すことの重要性を。



深海魚が自分は海にいることを知らないように、日本にいただけでは、気づけないことは、たくさんあります。今回の研修は、日本を、自分自身を見つめなおすとても良いきっかけとなりました。ドイツで得たことを最大限、これからの生活、私の将来に活用していきたいです。素晴らしく貴重な経験をさせて下さった方々には感謝の念があふれるほどあります。本当にありがとうございました。



「子ども交流事業を終えて」

弓 日向菜

私にとって今回が初めて海外に行く機会となりました。初めて行った国がドイツで良かったです。ドイツはとても美しいところでした。

ドイツの行ってすぐのイメージは緑が多くてきれいなところだなと思いました。一軒家というのが本当に少なくてフラットというアパートのような家が多かったです。私が最初に街で思ったことは、「外国だなあ」ということでした。車が全部左ハンドルで右側通行でした。まず、日本で左ハンドルをあまり見かけない上に、車が右側を走っているなんて洋画の中でしか見たことがなかったので感動しました。ただ、慣れていないので車が来た時に「えっ、こっちからくるの?!」と何回もびっくりしました。

ドイツについてすぐみんなと別れてホストファミリーである Cam の家族と Cam の家へ行きました。私はドイツへ行く前に Cam とうまくメールが出来ていなかったのですごく不安でしたが、実際にあってみると、Cam の両親は英語は通じなかったけれど、両親も Cam もとてもいい人たちで話しやすかったです。Cam と初めて写真を撮ったのは車の中でした。車の中で自己紹介をお互いにしました。この日は家についてから風呂に入って、Cam のお母さんがベトナム料理を作ってくれて、それをみんなで食べました。



私は人見知りをしたり、自分から話しかけに行くことを苦手としていたので今回ドイツに行ったことも、誰も知っている人がいないところで違う言語を話したりしたことも自分自身でも驚くことでした。実際、この交流会も行きたいけれど申し込むべきかとても迷いました。海外にとっても興味はあったし、行きたいという思いもあったけれど、行って本当に自分一人でやっていけるのか、と不安が大きかったです。でも思い切って海外まで行ってしまえば、誰かに甘えてダラダラしている今も、誰かに頼ることができないことで少しでも変えられるんじゃないか、これから迷うことがあっても、海外に行くことだってできた、そう思えばしたいと思ったことにもチャレンジできるのではないかと思い申し込みました。行動して正解でした。



違う文化を体験したりこの年で海外の友達を作ることが出来たりと、とてもいい経験をさせていただきました。



「ドイツでの最高の思い出」

黒田 優香

初めての海外は驚きの連続でした。飛行機に長く乗らなくちゃいけないことは知っていたけれど、時差のせいでこんなに体が疲れるとは知らなかったし、空港のトイレを使えば便器の高さもトイレットペーパーの備え付けられ方も違ったし、日本とは違うことばかりでツアイツへ着く前からとても疲れました。

空港へ着いたときは緊張で汗が止まりませんでした。これから私は日本語の通じないところで一夜過ごすんだ、そう思うと怖かったです。

荷物を受け取って外へ出ると初めて会ったのに（私のホストファミリーはあの人たちだ…）とすぐにわかりました。

空港からの移動中は慣れていないせいもあって何も英語が聞き取れず、申し訳なさでいっぱいになり、これからの二週間を不安に感じていましたが、次の日から（通じなくても仕方ない、だって私の英語は完璧じゃないんだから）と割り切ってホストファミリーに積極的に話しかけたので、すぐにみんなと打ち解けました。



毎日が楽しくてごはんはどれも美味しく町並みはどこを見ても美しく、2週間は本当に夢のようでした。言葉に不自由する場面は確かにあったけれど、伝えたい、という気持ちがあればお互いのわからない言葉でも伝えられることを知りました。家族も、滞在中スロバキアから来ていたホストシスターのいとこたちもみんな本当に優しく笑顔が素敵で、私はこの人たちに出会えて本当に幸せだと思います。

来年日本へ来るのはホストシスターだけだから、私は高校を卒業したら家族のみんなに会うためにもう一度ツアイツへ行きたいと考えています。

このような機会を与えてくださった方々、引率の下川さん鳥飼さん、また応援してくれた家族や励ましてくれた友人たちへの感謝を忘れず、二週間で体験したことを胸にこれからを大切に生きていきたいです。



日記





日時：平成29年（2017） 7月23日（日曜日） 天気：晴れ



今日の日程

福岡空港 → 関西国際空港 →
フランクフルト空港 → ライプツィヒ空港
→ ホストファミリーの家へ

今日はドイツに行くために飛行機に乗りました。私は今回が初フライトで少し緊張していましたが、同時にわくわくもしていました。関西国際空港には割りときとあつという間に着いて、そこまで緊張しなかったけど、そこから国際便に乗るときはとても緊張しました。いよいよ外国に行くんだと思ってドキドキしました。

ドイツまでの飛行時間はとても長く寝ていました。飛行機の中での食事はとても美味しかったです。ドイツに着くと、私たちのホストファミリーが出迎えてくれていました。私はホストシスターのカムと上手くメールのやり取りができておらず、とても不安でしたが、実際ホストファミリーと会った時、すごく優しくて安心しました。この日は、みんなと別れてカムの家にそのまま行きました。移動する車の中でも写真を撮ったり、自己紹介をしたりと思っていたよりたくさん話すことができました。カムの両親はベトナム語で英語が通じなかったけど、話しながらジェスチャーをつけてくれたり、たくさん話しかけてくれました。

夕食はカムのお母さんの手作りのベトナム料理で、お花の形をした人参と大根の入った冷たいスープにキャベツに似た野菜と麺、春巻きのようなものを入れる料理でした。さっぱりとしていて、とても美味しかったです。



お風呂は日本と違いシャワーのみで、1日目から日本との文化の違いを少しずつ感じました。私はお風呂に入った後、カムとカムの部屋で話しました。カムはK-POPが好きで、その話題で盛り上がりました。ドイツに行く前は不安ばかりでしたが、来てしまえばなんとかなりました。

団員のみんなと別れてからずっと英語だったので、少し疲れてこの日は早く寝ました。

担当：弓 日向菜





日時：平成29年（2017） 7月24日（月曜日） 天気：雨



今日の日程

ツアイツ市役所で市長表敬訪問
ルスティカで昼食
ドラムワークショップ
⇒各家庭へ

今日は、ツアイツ市の市長に表敬訪問にいきました。緊張したけど、ドイツ語の自己紹介をはっきり言えたので良かったです。ツアイツ市は、さすが1050周年という感じの古い街並みで、とても綺麗でした。

ドイツには、日本の3時のおやつのようなアフタヌーンティーという時間があります。私がリクエストしていたプレッツェルが出てきてうれしかったです。でもとても大きくてびっくりしました。

その後、ホストファミリーとドイツのゲームをしました。すごろくに良く似たようなゲームだけど、相手のコマをスタートに戻せるなどの日本とは違った感じで、とてもおもしろかったです。

晩ご飯は、2種類のサラダとパンとハムが3種類出てきました。サラダは2つとも嫌いだったけど、パンとハムは、とてもおいしかったです。初ドイツの1日目をとても楽しむことができてよかったです。



担当：宮原 識水音





日時：平成29年（2017） 7月25日（火曜日） 天気：雨



今日の日程

託児所（キータ・ムズイクス）
昼食（エールミューレ）
モーリツブルグ城見学
日本庭園の見学
⇒各家庭へ

今日はツァイツ市にある託児所を訪問しました。建物の大きさは日本の幼稚園や保育園と同じぐらいかなと思いながら託児所に向かいました。実際に行ってみると想像より大きくてびっくりしました。外国では大人の人と打ち解けるのも大変なのに、言葉の通じづらい子どもたちと打ち解けることができるのかなと少し不安でした。しかし、子どもたちの笑顔を見ると不安な気持ちも徐々に消えていきました。そして、たくさん一緒に遊ぶこともできました。どこの国でも、子どものパワーはすごいなと感じました。とても楽しい時間を過ごせてよかったです。

昼食の後、日本庭園とモーリツブルグ城に行きました。日本庭園は枯山水などもきちんと表現されていてすごいなと思いました。モーリツブルグ城では、中にあった博物館の見学をしました。ベビーカーのことを中心に紹介している博物館で、なんでベビーカーなのかと思ったら、ベビーカーを世界で初めて作ったところがツァイツ市だという話を聞いてびっくりしました。

今日は、ツァイツ市に来ていなかったら知ることがなかったようなことをたくさん学ぶことができてよかったです。



担当：吉川 さくら





日時：平成29年（2017） 7月26日（水曜日） 天気 晴れ



今日の日程

乗馬体験
騎手の家で昼食
ブーヘンヴァルト強制収容所訪問前のワークショップ
⇒各家庭へ

今日は、まず青年の家に集合しました。そこで私は、初めてサッカーゲームをしました。思ったとおりにいかなくて、難しかったけど、楽しかったです。通訳のフェリックスは、とっても上手でした。日本に帰るまでに、1回は勝ちたいです。全員が集まってからツァイツ市の乗馬クラブに行きました。

小さい子どもも乗馬をしていて驚きました。私たちも乗馬体験をさせていただきました。日本では見たことのない大きな馬でした。前向きに歩くだけでなく、後ろ向きに乗ったり、両手を離して走ったり、とても楽しかったです。

午後は、フェリックスの強制収容所訪問の事前研修でした。とても分かりやすく教えてもらい、戦争の恐ろしさを改めて知りました。明日、しっかりと見たいと思います。

帰ってからは、アフタヌーンティーにアップルパイを出してもらいました。これもとてもおいしかったです。

明日も、ドイツをしっかり楽しんでいきたいです。

担当：宮原 識水音





日時：平成29年（2017） 7月27日（木曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ブーヘンヴァルト強制収容所跡訪問
昼食（ホットドック）
ワイマール市内見学
⇒各家庭へ

今日はナチス時代の強制収容所へ行きました。収容所は丘の上にあるので、とても寒く空気が乾燥していました。

出国前に本を読んで、前日にまた詳しく勉強をして、施設へ入る前にも映像を見て、本当にたくさん学習をして知識を詰めて臨んだけれど、実際にその場に行くと心がとても苦しくなりました。百聞は一見に如かず、という言葉は本当にその通りだと身をもって感じました。

その所々で説明を受け、実際に使われていた物を目にするたびに数十年前に実際ここで行われていたこと、またそれ以前から繰り返されてきたユダヤ人の人々や該当する人々へのひどい扱い、また差別を受けていたさまざまな人々の悲しみや苦しみを考えるだけで胸が張り裂けそうでした。こんなに寒いところで、ご飯も満足に食べることができず、衛生環境の最悪だったこの場所で、なにも出来ずに亡くなった数万の人々の命の重みを感じました。同じ人間なのに、どうして優劣をつけて差別することができるのか信じられません。

私たちは今幸せに生活しているけれど、今も世界の様々な地域では紛争が起こっているのだと思うと、私たちにも関係のない事ではないと思います。私は今日学んだことを忘れずに、国際社会で起こる様々な問題に対して自分なりの意見をもって行動できる人でありたいと思いました。



担当：黒田 優香





日時：平成29年（2017） 7月28日（金曜日） 天気：晴れ



今日の日程

エインツマン社訪問 （金属に刻印する会社）
昼食（青年の家）
ドイツ式ボーリング体験
⇒各家庭へ

今日はエインツマン社に行きました。そこは1922年から続く古い会社で、金属の記念品などを手や機械で彫刻し製作する会社でした。そこにはかわいい彫刻品などが沢山販売されていました。その後、工場の方から案内され、僕達も実際に記念品の製作を体験させていただきました。

工場に入っていくと、見たことの無いような機械が沢山あって、それらは鉄やガラスなどに文字を書いたりする機械で、レーザー光線で彫刻する高価な機械も置いてありました。

最初に体験した事は、クローバー型の金属に自分のイニシャルを彫刻し、キーホルダーを作りました。その次はアルミ製の小さな水筒に今回みんなで写った集合写真を機械で印刷する体験をしました。その機械は200度の高温で印刷するそうです。思ったより操作は簡単でした。

最後に会社の外に置いてある古い金属製の道具で丸いコイン型の金属を機械に置き、上から大きなハンマーで叩くとそのコイン型の金属に文字や絵柄が刻印される機械でした。出来たコインを見ると今回訪問したエインツマン社のマークやツァイツ市のマークなどが刻印されていました。とてもいい体験が出来た楽しい時間をすごしました。

帰り際に会社の方に日本のお土産を渡し昼食後、次の移動先に行きました。

次の移動先でホストファミリーの方達とみんなでボーリングに似たドイツ式ボーリングを体験しました。ボーリングのスタイルは日本のボーリングと同じですが、ボールのサイズがとても小さく指を入れる穴がひとつも開いていません。でもボール自体が小さいので手のひらに載せて転がすようなスタイルでした。体験するとボールが軽く、日本のボーリングのつもりで投げると思ったようには転がらず意外と難しかったです。

今日も一日すばらしい体験が出来てありがとうございました。

担当：樋口 結一





日時：平成29年（2017） 7月29日（土曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

今日は、朝からドレスデンにいきました。そこで、日本人の方とも会いました。ドレスデンにはお城や教会などたくさんの歴史的な建物がありました。私が今日の中で感じたことは2つあります。

まず、1つ目はとても活気のある町なのに歴史が色濃く残っていてすごいなと思いました。日本では都市化が進むにつれて歴史的な建物が減っています。しかしドレスデンにはしっかりと残っているので日本ももっと残していくべきだなと思いました。特に、フラウエン教会は大きなパイプオルガンがあり、白と金を基調とした美しい教会でした。

次に2つ目は、日本とは違い町中で音楽が流れておりました、たくさんの芸術作品が道に展示されていてとても自由な町だなと思いました。歩いて見ているだけでとても楽しくなり、日本には無い文化を感じる事ができてとても良かったです。あと、その作品の中に人が犬の散歩をしているのを作ったものがあってあまりにも似ていて驚きました。

ドイツの大都市を見ることができて、貴重な体験でとてもよかったです。また、日本と比べることで違いが分かり、より一層楽しむことができて良かったです。



担当：細川 留花





日時：平成29年（2017） 7月30日（日曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

今日はお城にいきました。また、ホストブラザーの誕生日パーティーがありました。

お城は、山のような場所にあり、周りには住宅がありました。お城には、大きな井戸がありました。これまで見た井戸の中で一番大きな井戸でした。また、お城の中を見ると肌で、昔のお城の生活を感じることができました。例えば、お城を温かくするための暖房のようなものも見ました。しかし、お城は薄暗くて、かつ広くて大変そうなのでお城には私は住みたくないと思いました。日本ではなかなか見かけることのできない石畳の道がとてもきれいでした。

ホストブラザーの誕生日パーティーではたくさんの親戚の人が集まり、話したり、食事をしたりしてとても楽しかったです。特に私はドイツの桃にはまってしまいました。皮ごと食べられて、実は日本のものより小さくて食べやすかったです。しかし、ドイツ語がよくわからなかったのでドイツ語をもっと勉強して、もっと色々な人と会話ができるようにしていきたいと思いました。とても楽しいパーティーでした。

今日は歴史にふれ、たくさんの人と交流ができてよかったです。とても貴重な体験でした。また、ドイツ語を勉強しなくてはならないなと痛感した一日でもありました。



担当：細川 留花





日時：平成29年（2017） 7月31日（月曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ライプツィヒ市内見学
昼食（ライプツィヒ大学）
ライプツィヒ市内見学
⇒各家庭へ

今日はライプツィヒへ行きました。まずライプツィヒ大学へ行ったけれど、とても大きくてきれいで驚きました。建物自体が観光地の建物みたいにきれいで歴史を感じられました。それに出入りする学生も日本の大学生とは大きく異なり、みんなとても大人っぽくて違いを感じました。

大学の図書館はとても広く静かで、ここで勉強することができるのはとても幸せだろうな、と思いました。私の家の近くにはこういった図書館が無いので、とてもうらやましく感じました、私の家の近くにもこんなにきれいな図書館が欲しいです。

昼食は大学の食堂で取ったけど、食べ物が沢山あって広くて皿に盛られる量がとても多く驚きばかりでした。でも食べたものはどれもおいしかったし、いろんな国籍の人が同じ空間でランチを取る、ということが島国の日本ではあまりないと思うので、そのグローバルさをとても新鮮に感じました。私の知っている食堂ではなかったです。

ご飯を食べたら待ちに待ったショッピングでした。私たちは女の子全員で行動していたので、みんなでチョコレートショップへ行ったりアイスクリームを食べたり、お洋服を見たりとても楽しかったです！スーパーへも行き、お土産もたくさん買うことができました。天気も良くとてもいい一日でした。



担当： 黒田 優香





今日の日程

ポーザー修道院/ハーブ料理
昼食（ポーザー修道院）
カヌー体験
⇒各家庭へ

今日の朝ごはんはいつものパンといくつかのジャム、そして沢山の果物。大抵ここで出てくる果物は、季、杏子、りんご、あとたまにキウイ。

もう出発する時間。ホストマザーの運転する車に乗って青年の家に向かう。だいぶ慣れたけど、ツイツには石畳の道路が結構あり、よく揺れる。自分は乗り物酔しないので、どうもないが、乗り物酔いする人にとっては、地獄のようらしい。

青年の家に到着。着いてすぐに、ここから歩いて、修道院に向かう。修道院への道は急な坂。だいぶきつかった。日陰で一息つく。息もすっかり落ち着いた。涼しいなあと思いながら休んでいると、奥から自分と同じくらいの身長的女性が歩いてきた。マイケさんというらしい。彼女はここを管理するボランティア団体の人で、この修道院に住んでいる。

マイケさんに連れられて、到着したのはお庭。いろいろな植物があった。これらは、ハーブティーにしたり、虫たちに優しい、はちみつが作れたりする植物ばかり。どうりでこんなにも虫が多いはずだ。庭の奥まで進むと、おしゃれな石窯が見えた。今日はこの窯で、ピザと、ストロベリージャムのクッキーケーキ（ただいま命名）を作る。自分はピザの上に乗せるハーブを担当（ちぎって、切る。ちぎって、切る。ちぎって、切る）だんだん茎から葉だけをとる作業が神がかった。ずっと続く単純作業。やっと終わった。自分のぶんの仕事を終え、他の人の仕事を見学。

鳥飼さんがおろし金みたいなものを使ってチーズを細かくしていた。見ていて、楽しそうだったので、少しやらせてもらった。チーズが切れていく感触がものすごく気持ちいい。いろいろな切り口が6種類ぐらいあった。全部試してみた。ボウルの中を見ると粉チーズのようになっているものから、大きいさけるチーズのようなものまであった。大きさにばらつきがありすぎて、すこし不安になったけれど、まあ、どうせ焼くから溶けるさ、とかいう言い訳をしながら退散。

そうこうするうちに、1枚目のピザが焼きあがった。カトリンさんが切り分けくれたのを、一切れもらう。美味しい。ハーブが良い感じのアクセントになっていて、何枚でも食べられそうだ。（僕が作業した）ハーブが良い感じで。

すっかりみんなも食べ終えて、ここを帰る時間。マイケさんにお別れを告げて、青年の家に戻る。帰りは車で楽チンだった。

担当：廣田 大騎



日時：平成29年（2017） 8月 2日（水曜日） 天気：晴れ



今日の日程

夏そり体験
昼食（レストラン）
ヴァイセンフェルス警察署見学
⇒各家庭へ

今日は朝から夏そり体験に行きました。草スキー的なものかと思っていたら、すべり台の上を2人乗りのカートですべるようなものでした。1回目にすべったときは、初めてだからあまりスピードが出ませんでした。しかし、2回目は時速26キロメートルぐらいスピードが出てとても楽しかったです。

コースの中にいくつかの障害物があって、水をかけられてびしょびしょになっている人もいておもしろかったです。夏そりをした後、その施設にあったゴルフを2チームに分かれて対決しました。

「よし、がんばるぞ!」と思って打つと、なんと1打目からホールインワンしました。うれしかったです。でもその後は・・・。

昼食の後、警察署を見学に行きました。いろいろな部屋を見学させてもらっている最中にアルコールの検査や危険ドラッグの検査をさせてもらっている人もいました。検査にひっかかるわけはありませんが、実際に検査をすると、みんなひっかからないかドキドキしていました。無事にクリアできてよかったです。

パトカーにも乗せてもらいました。ドイツのパトカーはシルバーとブルーで違和感しかありませんでした。日本とドイツの違いをたくさん発見できた1日でした。



担当：吉川 さくら





日時：平成29年（2017） 8月 3日（木曜日） 天気：晴れ



今日の日程

コロリート劇場訪問/劇製作
昼食（コロリート劇場）
アスレチックの森
⇒各家庭へ

午前中はコロリート劇場で送別会の出し物「サーカス」というテーマの演劇の練習をしました。僕はホストファミリーのアネッタさんとペアになって練習しました。初めてで少し恥ずかしかったのですが、練習するにつれ次第に楽しくなって来ました。

各家庭のホストファミリー達がいいアイデアを出しながらいい演技の練習が出来てとても良い経験になりました。

昼食はコロリート劇場の練習した部屋でパンに大きなソーセージをはさめたホットドックのような料理を頂きました。イイにおいがとても美味しかったのですが、大きすぎて完食するのが大変でした。

午後からはナウムブルクへのアスレチックの森に行きました。そこは木の上に沢山の障害物が仕掛けられてあり見た目は簡単そうでしたが、木の上に登ってみたら高くてちょっと怖かったです。初心者用から上級者用のコースがあり中級者のコースをチャレンジしたら意外と難しかったです。次に上級者用にチャレンジしてみたのですが年齢制限でチャレンジできませんでした。結構泥まみれになったけど楽しい経験ができました。



担当：樋口 結一



日時：平成29年（2017） 8月 4日（金曜日） 天気：晴れ

今日の日程



和食調理
送別会の練習
送別会
解散

このドイツ訪問もあと少し。

朝の9時に青年の家に集合。今日の前半はここで送別会の準備。はじめにしたのは、昨日した、劇の練習。今回送別会でするのはオリジナルダンスとサーカスの劇。その指導のために“ズーパー”の人が来ていた。

オリジナルのダンスの配列で、急遽僕がセミセンターになった。同じグループの人が前におらず、自分が最前列(グループ内で)なので、他の人は僕に合わせて踊る。少し緊張もするけど、好きに踊れるからラッキー。ダンスの練習を5回程度やって次は劇の練習。どうやら本番はいろいろと小道具があるらしい。

蛇使い役の僕は、竹製の籠と蛇を表現するためのネクタイ。小道具にテンションが上がって、ノリノリで、演技をしたら、また褒めてもらった。とても嬉しかった。

出し物の練習もひと段落つき、今度は料理を作る。作るのは、肉じゃが、お好み焼き、そして焼き鳥。僕が担当するのはお好み焼き。卵を20個割って、小麦粉ドバツと入れて、お水を入れ、混ぜる。みたいな感じで、ようやくできたお好み焼きのタネ。全然小麦粉の量が足りなかったらしい。そのあと、結局レシピの倍量ぐらい入れてしまった。

あとはこれを、外のホットプレートで焼くだけ！なぜか、最後の方は全部フェリックスが焼いていた。焼き方が下手だったなんてことは絶対はない…と思いたい。

皿洗いを終え、ふたたび出し物の練習。ドラム。マリオ登場。終了。

パーティーが始まる。最初は市長の挨拶。「とす」「ヤパーニッシュ」とか、聞こえてきたので、きっと僕たちのこと言われているのだろうなど、思ったけど、フェリックスが訳してくれず、結局わかんなかった。

いよいよ、練習した出し物。練習どおりしっかりできて、一安心。

この後もパーティーは続く。留花さんが、スーパーハイテンションになったくらいで、あとは無事に終了した。

担当：廣田 大騎



日時：平成29年（2017） 8月 5日（土曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

今日は、ホストファミリーと過ごす日でした。私は午前中、カムの両親から途中まで送ってもらって、カムとタイタニックの展示場へいきました。

中に入ると大きなスクリーンがたくさんあって、そこで船を作っている場面などが流れていたのを見ながら回りました。壁にはたくさん説明がドイツ語で書いてあったけど分からなかったの、カムが簡単な英語で教えてくれました。

奥に進むと部屋がすべて青くて海の中にいるようでした。階段を上って上から見ると、壁一面に沈んでしまった大きな船が立体的に見えてきました。時間によってライトが赤くついたり、音楽が流れたり、すごくリアルな空間でした。

その後は、電車に乗って大きなショッピングモールに行きました。電車が日本と違って、道路の真ん中を通っていて、すぐ隣に車が走っていて不思議な光景でした。ショッピングモールはとても大きくて驚きました。カムとまず、洋服を見るために、たくさんのお店を見て回りました。

ドイツの洋服はとても安かったし、値引きのされ方がすごくて、とてもお買い得な印象でした。私は、カムと色違いの洋服を買いました。

たくさんのお見せを見て回った後は、ショッピングモールでお寿司を食べました。日本と違って、お寿司っぽいけど違うかな？というものがたくさんありました。お皿におせんべいに乗って流れてきたので楽しかったです。カムが日本に来たら、お寿司を食べに連れて行きたいと思いました。



担当：弓 日向菜





日時：平成29年（2017） 8月 6日（日曜） 天気：晴れ



今日の日程

ライプツィヒ空港→フランクフルト空港
→羽田空港

今日はホストファミリー達とお別れの日でした。泣かないと決めていたし、お別れパーティーの日もたくさん笑っていい日に終わって、出発の朝は家の中を回ってお世話になったこの家にお別れをしてきました。それでもやっぱり最後の日だと思うととても悲しくて泣いてしまいました。

この家族と過ごすことは今日で最後だと思うととても寂しく、空港までの車中でも最後のツイッツを目に焼き付けたくてずっと窓の外を眺めていました。16日間は日本で過ごせば簡単に過ぎていく期間だけれど、ツイッツで過ごしたこの16日間は本当に有意義でした。

初めての海外で、二週間前から不安でネガティブになっていたこと、「飛行機に長く乗るのがつらいのかな」「ごはんはどうだろう上手く頼めるかな」と不安だった出発日の私とは本当に変わっていて、心も体も大きく成長したと自分自身で実感しました。研修に参加して一番変わったことは「色々な事を気にしなくなった」という点です。上手く伝わらなくてもめげない、いちいちへこまずいろんなことに挑戦しよう、明るく過ごそうと考えられるようになりました。

空港に着いてからもホストファミリーのみんなはずっと話しかけてくれて、本当にこの家族に出会えてよかったと心の底から思いました。一年後またホストシスターに会える事を楽しみにして、毎日を大切に過ごしたいです。



担当：黒田 優香



日時：平成29年（2017） 8月 7日（月曜日） 天気：晴れ



今日の日程

羽田空港→福岡空港

→鳥栖市役所到着

解団式（帰国報告）

いよいよ最終日。長いようで短い、いやむしろ充実していて、長い2週間だった。国を知るのには短い時間だけれど、人と仲良くなるには充分すぎるほどだった。ホストファミリーとはもちろん、同じ日本人の研修生とも大分仲良くなったように思う。事前研修の時は、みんな（少なくとも僕は）お互いに話さなかったけど、帰りの飛行機の待ち時間では、もうすっかりEU限定のマックメニューをシェアする仲になった。

フランクフルト空港での待ち時間が長く、2時間ぐらいあったけれど、マックの限定メニュー、ピンク色の謎の飲み物、その他もろもろのおかげで、退屈しなかった。

真夜中に飛ぶ飛行機の中。ドイツに持って来ていてほとんどしていなかった夏季課題に向き合う。毎日夜になるたび、やろう、やろうと思って結局ほとんどしなかった、たまった宿題を飛行機でする。新人の機長なのか、ものすごく揺れる（気流のせい？）。うまく文字が書けないで、課題は減らないのに、消しゴムはかなりなくなった。

こうして僕のドイツ研修は問題集とともに終わった。

この研修でだいぶ成長したような気がする。とても楽しく、充実した、貴重な2週間だった（帰りの飛行機は除き）。自分を送り出してくれた両親にひたすら感謝です。

飛行機から見える、雲に浮かぶ日の出が最高にきれいでした。



担当：廣田 大騎